

『宇治拾遺物語』「児のそら寝」文法確認プリント（助動詞）

一年（ ）組（ ）番 名前（ ）

（

【一】次の傍線部の助動詞の意味を漢字で答え、活用形は記号で答えなさい。

今は昔、比叡の山に児あり①けり。僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせ②む。」と言ひ③けるを、この児、心よせに聞き④けり。さりとして、し出ださ⑤むを待ちて寝⑥ざら⑦むも、わろかり⑧な⑨むと思ひて、片方に寄りて、寝⑩たるよしにて、出で来るを待ち⑪けるに、すでにし出だし⑫たるさまにて、ひしめき合ひ⑬たり。

この児、さだめておどろかさ⑭むず⑮らむと、待ちゐ⑯たるに、僧の、「もの申しさぶらは⑰む。おどろか⑱せたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度にいらへ⑲むも、待ち⑳けるかともぞ思ふとて、いま一声呼ば㉑れていらへ㉒むと、念じて寝㉓たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひ㉔に㉕けり。」と言ふ声のし㉖ければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のし㉗ければ、ずちなくて、無期ののちに、「えい。」といらへ㉘たり㉙ければ、僧たち笑ふこと限りなし。

《活用形》ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 已然形 カ 命令形